

本科 11月6日(木)

第40・41回講座 「里海・里沼の基礎論」

講師 小倉 久子氏 (元千葉県環境研究センター水質環境研究所長、
千葉県生物多様性センター兼務)

日時 11月6日(木) 10:00~15:00

場所 ふなばし三番瀬海浜公園・谷津干潟自然観察センター

テーマは、里海としての三番瀬～人と海との関わり～

季節はずれの台風20号の影響による小雨まじりの空模様の中、三番瀬と谷津干潟でのフィールドワークによる小倉久子講師の「里海・里沼の基礎論」の講座が行われた。

東京湾の水環境は、周辺人口の増加による富栄養化と埋立てによる干潟や浅瀬の減少で自浄作用が大きく減少したために、なかなか水質が改善されない状況になっている。

こうした東京湾の現状を三番瀬で見学し、水環境保全の取り組みや人の生活との関わりについて学ぶ良い機会の講座となった。

またラムサール登録湿地の谷津干潟では、地域の方や子供たちが干潟に関わり、自然に目を向け、自分たちのできることからやる保全活動が自然観察センターを中心に行われていることが紹介された。そして、これからの持続可能な社会に求められる人材育成やまちづくりに還元することが目指されていた。受講生にとって、これからのシニアライフにおける活動の指針ともなる1日であった。



ふなばし三番瀬海浜公園に集合し、三番瀬の概要説明を受け、観察に出発しました。



浅瀬は海水の富栄養化により大量繁殖した緑藻のアオサで覆われていました。



潮のひいた干潟ではリップルマークの砂模様とコメツキガニが砂から有機物の餌をとった後の砂団子が・・・



干潟で採集した様々な生物について小倉講師から説明を受けました。



アサリ、マテガイ、ホンビノスガイ、ウミノナなどの貝のほかにも、水クラゲ、マメコブシガニ、コメツキガニなども採集



午後は谷津干潟自然観察センターへ移動し、里海の生態系サービスに関する講義と谷津干潟の歴史の映像を見ました。



三番瀬で採取してきたアサリを使って水の浄化の様子が再現されました。



講座終了後、谷津干潟を案内していただき、谷津干潟の歴史と現状を視察しました。